

## 第2回石川県令和6年能登半島地震復旧・復興本部会議 議事録

---

### (開催要領)

1. 開催日時 : 令和6年3月28日(木) 13時00分～14時00分
2. 場所 : 石川県庁舎4階庁議室
3. 出席者 : 馳知事、徳田副知事、西垣副知事、北野教育長、細田警察本部長、  
内田総務部長、中塚戦略広報監、飯田危機管理監、高橋企画振興部長、  
戒田県民文化スポーツ部次長、柚森健康福祉部長、森田生活環境部長、  
光永商工労働部長、竹内観光戦略推進部長、竹沢農林水産部長、  
臼井競馬事業局長、鈴見土木部長  
古賀政府現地対策本部長、内閣府防災担当、総務省、文部科学省、  
厚生労働省、環境省、国土交通省、経済産業省、農林水産省、  
ネブラ株式会社代表取締役 阿部博史氏

### (議事次第)

1. 開会
2. 知事あいさつ
3. 議事  
創造的復興に向けたプランの骨子案について
4. その他
5. 閉会

### (会議資料)

会議資料 : 石川県創造的復興プラン(仮称)骨子案  
参考資料 : 復興タイムラインについて

---

## 1. 開会

### 【高橋企画振興部長】

それでは、第2回石川県令和6年能登半島地震復旧・復興本部会議を始めさせていただきます。はじめに、知事からご挨拶をお願いいたします。

## 2. 知事あいさつ

### 【馳知事】

お疲れ様でございます。今日は2回目となりました。発災から今日で3ヶ月。本当に大変な状況の中から、とりわけ古賀本部長にはほぼ常駐していただき、各部長の皆さんにも、連日休みなく働いていただきました。政府側の皆さんにも改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そこでこの復旧・復興本部でありますけれども、今月中には復興プランをまとめたいということで準備をしまいいりました。県庁の皆さんには、担当部署で積み上げた議論をしていただいたことに感謝申し上げます。またこれはですね、今後とも、このプランをうまくタイムラインを作って、いつまでに何をやっていくのか、こうした議論を詰めていくことが次の段階に入ってくると思っています。従って今日、この後高橋部長から説明していただきますけれども、この内容をさらに肉付けしていただいた上で、次の段階に入りたいと、こういうふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

## 3. 議事

### 創造的復興に向けたプランの骨子案について

(事務局から会議資料「石川県創造的復興プラン（仮称）骨子案」に基づいて説明)

### 【高橋企画振興部長】

ありがとうございます。それでは早速ですが、議事に入らせていただきます。まず私の方から石川県創造的復興プラン骨子案について、ご説明をさせていただきます。資料をご覧ください。

表紙をおめくりいただき、1ページ目が基本的な考え方となります。この基本的考え方につきましては、第1回目の資料で理念および原則として記載をしていた箇所につき、様々なご意見を踏まえた上で記載の通り、三つにまとめて整理をし直しました。一つ目が現役世代、女性、広域避難された方も含めた被災地の住民・事業者の声を聞き、過去の災害からの復興の教訓を生かしながら復興を進める。二つ目が、単なる復旧にとどめず、自然と共生する能登の魅力を守り高めることで、能登ブランドをより一層高める創造的復興を目指す。三つ目が、今後を担う若い世代や民間・外部の力も活用しながら、地方の課題解決のモデルとなるような、能登らしくしなやかな復興を実現する、といたしました。次のページをお開きください。

二つ目は計画期間でございます。石川県の成長戦略の目標年次である令和14年度末を計画期間とした上で取り組みを進めたいと考えております。また各施策については、復興タイムラインを設定し、いつ頃までに何がどうなるのかということを示し、目安をもって将来の

能登の姿をイメージできるよう、短期、中期、長期に分け、復興に取り組みます。短期は2年後の令和7年度末まで、中期は5年後の令和10年度末まで、長期は9年後の令和14年度末までとしたいと思います。次のページをお開きください。

施策の体系とその概要でございます。この体系につきましては、記載の通り5つの柱に整理をいたしました。次のページよりそれぞれについてご説明をさせていただきます。

一つ目、教訓を踏まえた災害に強い地域づくりでございます。現在応急復旧が進んでいますが、インフラの早期復旧は今後の全ての復興の前提となることから、その迅速化を図ります。また今回多くのインフラが損傷しましたが、耐震技術と損傷の関係について技術的な検証を行い、今後のインフラの強靱化を進めます。その際には、点でまかなうインフラ、自律分散型のインフラについても選択肢の一つとし、地域の実情に応じた復旧のあり方についても検討いたします。この他、情報通信インフラの充実、液状化対策、住宅の耐震化など、災害に強いまちづくりも進めてまいります。次のページをお開きください。

具体の施策について主なものをご説明いたします。施策2については、災害査定の簡素化、合理化や、発注者間で工事発注の時期や資材の調達、工程管理などの調整を行う発注者連絡調整会議を実施するものです。施策3については、今のと里山空港で整備を進めていますが、プレハブ式宿泊施設なども含めて、応援職員や工事従事者などの宿泊拠点の確保を早急に進めるものでございます。

次のページに行きまして、施策6、また8については、いわゆるインフラ4点セットの強靱化を図るもので、道路で言えば、補強盛土など強靱な構造のものなど、各種公共土木施設や情報通信基盤の強靱化を図ってまいります。施策7については宅地の液状化対策や住宅の耐震化の促進など、災害に強いまちづくりを進めるものです。次のページをお願いいたします。

柱の2、能登の特色ある生業の再建です。能登の魅力は、農林水産業、伝統産業、観光産業などの特色ある生業が重なり合って形成されています。これら生業の再建なくして元の復興はありえません。特に高齢の事業者の方が多いことや度重なる震災被害により事業意欲が削がれているといった今回の特殊性に鑑み、事業の再建支援は強力に行う必要があると認識しております。なりわい再建支援補助金など国の制度を最大限活用しつつ、販路開拓や雇用維持などに幅広く支援を行います。事業再建までの間の支援も重要であり、仮設店舗の開設や物産フェアなどにより支援を進めてまいります。さらに、輪島塗を始めとする伝統工芸は石川県の大事な個性、強みであり、世界に誇る我が国の大事な財産であります。それらの事業再建と伝統の検証を強力に支援いたします。能登の観光の拠点である和倉温泉や輪島朝市などについては、今回の復興を契機に、高付加価値化を図るための面的なまちづくりを支援いたします。次のページをお願いいたします。

具体的な施策について主なものをご説明いたします。施策1については、店舗などを被災した事業施設の早期復旧を支援するものです。施策3につきましては、能登の基幹産業である農林水産業の再建として、担い手の確保、百万石の極みなど、能登ブランドとなる特色ある食材の価値向上などを支援するものです。4につきましては仮設工房の開設など伝統的工芸品の復興を支援するものになります。次のページをお願いいたします。

施策5については和倉温泉や朝市など、特色があって面的なまちづくりが必要なエリアにおいて、地元の若手によるビジョン策定やその具現化を支援するものです。6の観光につきましては、旅行需要の喚起を図るほか、能登の観光の核となる和倉温泉の観光振興、防災などをテーマとした教育旅行の誘致などを進めるものになります。施策7についてはレストラ

ンや民泊など能登の地域資源を活かした起業の促進のほか、能登の魅力である食や地酒の魅力発信を行うものです。次のページをお願いいたします。

柱の3、暮らしとコミュニティの再建です。復興に当たっては人のつながりが重要であります。固い絆で結ばれる能登の地域コミュニティの力を維持強化いたします。コミュニティの前提である住まいの再建は日常を取り戻すための基本でもあり、仮設住宅の整備を早急に進めていきます。その際将来の再生活再建を見据え、住民の意向を確認しながら、まちづくり型ふるさと回帰型の木造住宅の整備も行います。また、能登一帯に残されているキリコ祭りやあえのことなど独特の祭りや風習は、能登の魅力の一つであるとともに地域に暮らす人々の絆でもあります。祭りや文化財については、被害状況を調査し、修復や再建を支援いたします。また、学校は教育の提供だけでなく、地域を担う人材の育成の場でもあります。地域が一体となり、少子化の中、どのような魅力ある学校づくりができるか検討いたします。この他、デジタルなど新しい技術を活用したスマート生活の実現や地域公共交通の再建についても検討をいたします。次のページをお願いいたします。

具体の施策について主なものとなります。施策1については、仮設住宅等の建設促進のほか、輪島市街地などの面的なまちづくりや穴水駅など被災した駅舎の再建を支援するものです。2については、能登の地域コミュニティの維持に欠かせない祭りの再開を支援するもので、キリコ、神輿などの祭り用具の再建や被災文化財の早期復旧を支援するものです。施策3については、今回の災害により、より厳しい状況となった公共交通のあり方について自家用有償旅客運送なども含め検討を進めるものです。

次のページにうつりまして、4につきましては、学びの環境の再建として学校施設等の早期復旧のほか、教員の生活環境の充実、被災した児童生徒の心のケア、魅力ある学校づくりの推進などを行うものとなります。次のページをお願いいたします。

柱の4、安全・安心な地域づくりです。平素から適切な医療や福祉サービスが受けられることが、安全・安心な暮らしの基本であり、今回その重要性が再認識されました。こうしたことも踏まえ災害医療提供体制の充実とともに、奥能登の公立4病院の機能強化を検討いたします。また、高齢者や障害のある方、子育て世帯など全ての方が安心して暮らせるように福祉サービスの再建・強化も図ります。また今回の地震について危機管理対応や備え、避難所の運営などについて有識者による検証を行い、防災計画の見直しなどを行います。さらに今回の教訓を生かし、被災者への対応、避難所での環境整備、孤立が発生した場合への備えなどについても充実させます。次のページをお願いいたします。

具体の施策について、主なものをご説明いたします。まず1については先ほど申し上げました奥能登の公立4病院の機能強化、災害医療提供体制の充実のほか、診療調剤へのマイナンバーカードの活用など、ICTを活用した地域医療の推進などであります。2については、危機管理への対応の検証のほか、その結果を踏まえた防災計画や地震被害想定の見直しなどを行うものであります。次のページをお願いいたします。

施策3については、今回の応急対応でも活用することとなりました、衛星系通信の活用、ドローンの活用など、孤立化への備えを充実させるものであります。施策4については、男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営、避難所での入浴支援などの充実を図るものです。5については、警察の災害対応力の強化を図るものとなります。次のページをお願いいたします。

柱の5、創造的復興リーディングプロジェクトの創出です。住む人が希望や生きがいを感じ、外からも多くの人を惹きつける能登を創造するため、能登の特色を生かした思い切った

プロジェクトを数多く創出してまいりたいと考えております。能登にはこれまでも外部から移住され様々な事業を営んでいる方が大勢おられます。そして今、都市と地方、双方に拠点を構える新しいライフスタイルである二拠点居住の取り組みが国を挙げて動き出そうとしております。震災後の能登は、この動きがまさに必要と考えられることから、能登全域で更には石川全域でこうした関係人口の受け入れを推進するとともに、サテライトキャンパス構想を今こそ強力に推進してまいります。また白米千枚田の再生や、トキ放鳥など、能登の復興のシンボルとなる取り組みを通じて世界農業遺産の魅力の再発信を行います。このほか、金沢能登間の移動を高速化するため、のと里山海道の4車線化の整備の促進や、能登の海岸線の眺望を生かした能登半島絶景街道の構想を推進いたします。次のページをお願いいたします。

具体の施策について主なものをご説明いたします。まず施策1については、関係人口の創出拡大をプロジェクトとして、移住企業や二拠点居住希望者などの受け入れ推進拠点の確保、支援者の宿泊拠点ともなる空き家等を活用した民泊の創出、移住起業の促進を行うものでございます。2につきましては、金沢大学が開設したのと里山里海未来創造センターなど、高等教育機関との連携やゼミ活動の誘致など、能登サテライトキャンパス構想を推進するといった形で、高等教育機関が集積しているこの学都石川という特徴を背景に、学生の力を能登の復興に生かそうとするものでございます。施策3については、白米千枚田などの世界農業遺産の構成資産の魅力強化のほか、トキの放鳥をシンボルとした地域の活性化、能登半島国定公園の魅力活用を進めるものです。次のページをお願いいたします。

4につきましては、能登地域の復興の象徴となるような文化芸術イベント、スポーツイベントについて検討するほか、東アジア文化都市事業の再誘致を図ってまいります。施策5については、のと里山空港を能登の復興の活性化の拠点にしようとするもので、富裕層外国人のプライベートジェットの誘致や、自家用航空機などゼネラルアビエーション防災拠点としての機能強化、関係人口、交流人口の拡大の拠点とするものです。施策8については、地盤の隆起や断層などの地震の遺構を活用価値のあるものについては地域資源化するための調査を行うものとなります。以上が骨子案の概要でございます。

それでは、ここからは骨子案に関しまして、また今後の取り組み等も含めて各本部員からそれぞれご発言をいただきたいと思っております。こちらで指名をさせていただきますので、順番をお願いいたします。まず総務部長からお願いいたします。

#### 【内田総務部長】

総務部としては、この復興プラン、まだ骨子の段階でございますけれども、復興プランに掲げた各施策を着実に実行できるよう、予算面や組織、人員面でしっかりと支えていくことが必要と考えております。予算面では、これまでも、先の議会において、令和5年度補正予算および令和6年度当初予算におきまして、災害復旧関係経費に加えまして、なりわい関係など復興に向けた予算も既に計上しているところでございます。来る6月議会でまた補正予算ということで対応していくこととなります。しっかりと準備を進めてまいりたいと考えております。

また組織人員面につきましてはご承知の通り、4月1日に能登半島地震からの創造的復興および被災者の生活再建を図るため、庁内の司令塔として能登半島地震復旧・復興推進部を新設することとなっております。また同部には被災地域のニーズを現地において把握し、県の関係課との連絡調整を担う復旧・復興現地対策室を奥能登行政センター内に設置すること

になっています。部長級職員を充てるとともに、奥能登等被災6市町に担当課長級職員を常駐させて、しっかりと現地との連絡調整を行うこととします。

また土木部や農林水産部の能登地域の事務所には、それぞれ能登半島地震復旧・復興班を設置して、復旧・復興業務を推進することとしております。それから新設する能登半島地震復旧・復興推進部には、ここにあります庁内各部局の局長、また総括次長全員兼務ということになっております。こうした体制で能登半島地震からの復旧・復興に県を挙げてしっかりと取り組んでいくこととしております。総務部からは以上です。

**【高橋企画振興部長】**

次に戦略広報監お願いいたします。

**【中塚戦略広報監】**

今後骨子案が肉付けされて、具体的な事業とか施策になっていくということですが、それらの広報活動を通じまして、まず石川県がどういう姿を目指しているのか、それを目指して何をやろうとしているのか、何をやっているのかということが県民の皆さんによく理解できるような、そういう分かりやすい広報というのを展開していきます。一方で、復興プランに関する、県民の皆さんからの声というのを広聴活動を通じて聞いていきたいというふうに考えております。

また関係人口の拡大というのは、元々広報活動の重要なテーマでございましたので、この復興のプロセスというのを国内外に積極的に発信しまして、能登の復興に関わりたいとか、石川県を応援したいとか、そういう方々が増えるような関係人口の拡大に向けた広報活動を展開していきたいと考えております。以上です。

**【高橋企画振興部長】**

次に危機管理監よりお願いします。

**【飯田危機管理監】**

発災からこれまで人命優先ということで進めてきて、ステージが今、被災者の支援というところが変わってきているかと思いますが、いよいよ復旧・復興ということで、プランづくりが始まったという認識でおります。

危機管理監室としましては、この安全安心な地域づくりの項目にあります、施策2ですが、危機管理対応の検証をしっかりとやる、そういうことが大事だと思います。検証をしっかりとやってそこから教訓を抽出し、それを防災計画等に反映していく。今後の地震被害想定の見直し、こういうことも書いております。そういった、まず検証、それから被害想定の見直し、そこをしっかりとやって、今後の防災対応に備えていきたいというふうに考えております。それから今回の震災で大きな特徴では、やはり孤立集落が多数発生したということがあったかと思えます。そういった中で、衛星系の通信をしっかりと配備するとか、いざ孤立したときに、情報をどういうふうに収集していくか、いろいろ教訓があったかと思えますので、それをしっかりと検証して対応していきたいと考えております。それから避難所運営等につきましては、これを運営主体となります市町と連携して、対応をまた確認した後、今後の対策に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。以上です。

**【高橋企画振興部長】**

次に県民文化スポーツ部よりお願いいたします。

**【戒田県民文化スポーツ部次長】**

県民文化スポーツ部では、柱の3、柱の5につきまして発言させていただきます。今般の地震では、祭りを始め、能登の様々な伝統芸能、伝統行事が大きな打撃を受けました。これら能登の文化は、地域の魅力を高めるとともに、住む方にとっては故郷への愛着を育み、誇りとなるものでございます。県では、震災発災前から石川県民文化振興基金を活用して、伝統行事の担い手育成や指導者の確保などの取り組みを支援してまいりました。今後、祭りの再開を支援していくことは、ふるさと能登の絆を繋ぐ重要な取り組みだと考えており、しっかりと取り組んでまいります。

また復興に当たりましては、文化芸術スポーツの分野において、能登地域復興の象徴となるようなイベントを開催したいと考えており、今年開催を予定しながら中止を余儀なくされました、東アジア文化都市事業につきましても、能登復興の記念事業として、数年後の再誘致を目指してまいります。いろいろな知恵を出しながら、文化芸術スポーツの力を最大限に生かして能登の復興復旧にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

**【高橋企画振興部長】**

続けて健康福祉部よりお願いいたします。

**【柚森健康福祉部長】**

健康福祉部としましては、まずは5ページ目の教訓を踏まえた災害に強い地域づくりの施策1、公共土木施設等の復旧促進でございます。今回の地震で、医療機関や福祉施設は非常に甚大な被害を受けました。まずはこうした医療機関や福祉施設をしっかりと支えるとともに、市町や事業者、被災された方のニーズ、そしてその先の復興ということも踏まえながら、一日も早い復旧に向けてしっかりと取り組んでまいります。

次に14ページ目の安全・安心な地域づくりの施策1の医療・福祉・子育て支援体制の再建・強化でございます。1つ目の奥能登の公立4病院の機能強化、そして右の列の2つ目の福祉事業の提供体制強化、4つ目の避難者、被災者の健康管理など高齢者や障害のある方といった要配慮者や、子育て世帯など全ての方が安心して暮らしていけるように持続可能な医療や福祉、子育て支援体制の再建強化に向けて、市町などとともに取り組んでいきたいと考えております。以上です。

**【高橋企画振興部長】**

次に生活環境部よりお願いいたします。

**【森田生活環境部長】**

生活環境部でございます。まずは災害廃棄物の処理についてでございますが、被災者の生活再建や被災地の復興に不可欠な災害廃棄物の処理促進につきまして、令和7年度末の処理完了を目指しまして、環境省や市町と連携してしっかりと取り組んでまいります。海上輸送なども活用した県内外での広域処理や復興資材としての活用など、再生利用を進めるほか、公

費解体についても、既に一部市町で解体着手しておりますが、今後の本格化に向けて関係団体の協力も得ながら促進してまいります。また、これらの処理事業を担う被災市町に対しましては、人的、技術的な面でもしっかり支援をしてまいります。

次に上下水道についてですが、災害に強く、持続可能な水道インフラの整備に向けまして、地域の実情を踏まえ、市町のまちづくりと一体となった水道インフラの最適化を図るとともに、浄水場や水道管などの耐震化、停電対策を進めてまいります。また、能登ブランドの価値向上に繋がる創造的復興リーディングプロジェクトといたしまして、早ければ令和8年度となるトキ放鳥に向けた取り組みの促進や、トキをシンボルとした地域活性化を進めてまいりたいと考えております。また、能登半島国定公園の魅力を活用し、例えばエコツーリズムの推進として、能登の里山里海の豊かな自然を歩きながら楽しむ、仮称でございますが、のSDGsトレイルなどの取り組みを検討していきたいと考えております。以上でございます。

#### 【高橋企画振興部長】

次に、商工労働部よりお願いいたします。

#### 【光永商工労働部長】

輪島塗をはじめとする伝統工芸産業ですとか、あるいは能登杜氏により受け継がれてきた酒造りなど、能登の生活、文化を形づくってきたあらゆる産業、なりわいの復興をしっかりと後押しするため、令和5年度3月1次補正予算に、なりわい再建支援補助金をはじめとする各種支援策を計上してございます。

これらの支援策などを活用していただいて、1日も早い復興を果たしていただけるよう、奥能登総合事務所に設置している能登事業者支援センターなどにおいて、被災事業者の皆様にとしっかりと寄り添いまして国や関係機関とも連携しながら伴走支援してまいりたいと考えてございます。

また、被災地への支援、応援を息長く継続していただけるよう、今月上旬に東京の八重洲に首都圏アンテナショップ、新たなアンテナショップとして、八重洲いしかわテラスをオープンいたしました。こちらなどの場を通じて復興状況を随時発信し、被災地への継続的な支援、応援に繋げてまいりたいと考えてございます。

#### 【高橋企画振興部長】

次に観光戦略推進部よりお願いいたします。

#### 【竹内観光戦略推進部長】

観光戦略推進部では主に復興プランの能登の特色あるなりわいの再建の施策の6、観光産業の再建、ここにおきまして、まず第1に能登の観光拠点である和倉温泉等を核とした能登半島全体の観光地域づくり体制の強化、そして二つ目として観光資源の高付加価値化など、受け地の魅力づくりを支援するとともに、三つ目としまして、復興の進捗を踏まえた効果的な情報発信と手厚い旅行需要の喚起を図っていききたいと考えております。

また、今後施策の実行部隊となります県の観光連盟の体制強化におきましても、新たに能登半島担当のプロパー職員の設置をし、地元観光関連事業者との円滑なコミュニケーションを図りながら、施策を進めていくこととしております。

今回の震災により甚大な被害を受けた能登の観光産業の創造的復興に向けまして、個々の

再建を進める上でも、まちづくりの視点からの復旧支援や、市町にまたがる広域的な観光地域づくり体制の強化が極めて重要であると思っております。国や市町ともしっかりと連携をして創造的復興にあたってまいります。

**【高橋企画振興部長】**

次に、農林水産部よりお願いいたします。

**【竹沢農林水産部長】**

能登の農林水産業は、人口の1割が就業する基幹産業でございます。一方で、今回の地震により、従来から抱えておりました高齢化に伴う離農離職、荒廃農地の増加が加速することが大変懸念されます。このため、多様な担い手の確保、生産物の販売促進、なりわいの継続を通じた地域のコミュニティの維持、再生などを強力に進めるとともに、世界農業遺産をはじめとした能登のブランド価値の向上を図りながら、農林水産業の再建を進めてまいります。

そのため足元では、この春のなりわいの再開に向け今全力で取り組んでいるところでございます。さらには、単に現状復旧にとどめることなく、作業の効率化などにも配慮しつつ、今後同様の自然災害への影響も最小限に抑えるためにも、復興に当たりましては、強靱化の観点もしっかりと取り入れていかなければならないと考えております。

また、これまでに例のない地盤隆起など甚大な被害を受けた漁港の復興につきましては、先日開催をいたしました、復興のための協議会も活用し、地元関係者の意向を十分にお聞きしながら進めてまいります。

**【高橋企画振興部長】**

次に土木部よりお願いいたします。

**【鈴見土木部長】**

教訓を踏まえた災害に強い地域づくりといたしまして、被災者施設の災害査定に2月中旬から取り組んでいるところでございます。引き続き関係機関と連携して、道路などの公共土木施設の早期復旧に取り組んでまいります。

さらには、今回の地震を教訓に、単なる復旧にとどまらず、地震に強い強靱な公共土木施設や災害に強いまちづくりの推進に取り組んでまいります。

次に暮らしとコミュニティの再建につきましては、発災当初から被災者の方々の生活再建を図るため、住まいの確保に取り組んでまいりました。当初は、迅速かつ大量に供給可能なプレハブ型を中心に仮設住宅を建設してまいりました。今後は地域のコミュニティの維持再建に向け、地元市町を通じ、地域の方々の意向を丁寧に伺いながら、木造のまちづくり型や、ふるさと回帰型の仮設住宅を中心に建設に取り組んでまいります。

最後に創造的復興でございます。能登金沢間の移動の交通の高速化や、奥能登2市2町間の移動時間の短縮に向け、のと里山海道の4車線化や能登地区の幹線道路の強化に取り組んでまいります。公共土木施設の復旧や強靱化は、被災地の復旧・復興の前提となりますことから、関係機関と連携しながらしっかりと取り組んでまいります。

**【高橋企画振興部長】**

次に教育委員会よりお願いいたします。

### 【北野教育長】

教育委員会から2点申し上げたいと思います。まず1点目は暮らしとコミュニティの再建の施策2の中で文化財の再建についてであります。今般の地震によりまして、能登地域を中心に多くの文化財が被災をし、被災文化財の保全、修復が急務となっております。

現在、国立文化財機構や市町等と連携をいたしまして、専門家による被災状況の調査と救出、技術支援等を行っているところでありますが、修復に当たりましては、文化財としての価値を損なわないように適切な修復を行うということが必要でありまして、特に建造物では、所有者に大きな経済的負担が生ずるとということが課題となっております。しかしながら、長い歴史の中で、連綿と受け継がれてきた文化財を次世代に伝えていくことができるよう、被災文化財の修復に取り組んでまいりたいと考えております。

2点目は、学びの環境の再建でございます。多くの学校で被害が発生いたしまして、一部の学校では、近隣の学校を間借りしての授業やオンライン学習の併用、短縮授業等を余儀なくされたところでございます。新年度は、全ての公立学校におきまして、例年通りに入学式、始業式が行われ、短縮授業は解消いたしまして、通常の授業を再開する予定であります。引き続き1日でも早く復旧し、子供たちが安心して学校生活を送れるよう、学校施設の復旧や学習環境の整備に全力で取り組むほか、穴水町におきまして奥能登2市2町の県立および市町立の学校の教職員を対象とした仮設宿舎を建設することとし、教員の生活環境の充実にも努めてまいります。さらに、少子化が進行する中、地域の高校が引き続き生徒に選ばれるため、カリキュラム上の特徴でありますとか、特徴的な学校行事、部活動など、それぞれの特色や強みに一層磨きをかけていくことが重要でありまして、市町や地域の方々と連携をしながら、地域を担う人材の育成に取り組んでいくことができるよう、魅力ある学校づくりを推進してまいりたいと考えております。

### 【高橋企画振興部長】

次に警察本部よりお願いいたします。

### 【細田警察本部長】

まずは交通安全施設の整備について、資料では、6ページ目の施策6に掲げております。被災地における交通安全施設の整備につきましては、今後の道路復旧の状況等に応じて進めていくこととなりますが、単に復旧にとどまらず、交通安全のさらなる確保と円滑化に資するよう、信号機の常時電源確保のほか、設置場所等を検討し、また、横断歩道等の道路標示については、良好な状態が保持できるよう工夫して整備してまいりたいと考えています。

次に防犯活動の強化について、これは資料では、15ページ目の施策5に掲げております。現在、被災地域において全国警察から特別派遣部隊の応援を得て、警戒パトロール活動を推進しておりますが、最終的には管轄警察署が責任を持って防犯等の治安活動を担うこととなります。そこで明日29日から試行的に駐在所勤務員を警察署に引き上げ、交代制勤務により、24時間体制で被災地域の警戒パトロール活動を実施します。駐在所につきましては本来、日中帯の活動を主なものとしているところ、夜間深夜帯にも活動させるということであり、これらの活動により、治安上の効果がみられる場合には、将来的にはこうした機動性のある体制に変更するなど、交番駐在所のあり方も検討していくこととしております。

加えて、2月議会でご承認いただきました、移動交番車を整備し、警戒活動、警察行政サ

ービスを被災地全域において展開することも考えております。この復興の機会に石川県で一番安心して暮らせる市町づくりに取り組んでまいります。

**【高橋企画振興部長】**

次に、競馬事業局よりお願いいたします。

**【臼井競馬事業局長】**

競馬事業局ですが、この中には直接的な所管事業というのはございませんが、先般売り上げの方から義援金を拠出するためのレースを開催したほか、今後も県に繰出金を拠出できるよう、復興支援シーズンとして競馬を開催していくことで、復興支援に貢献していきたいと考えております。

それからまた、場内イベントなどでも被災された事業者にも物販や PR の機会をご提供するなどという形でなりわい再建などの支援にも貢献していきたいというふうに考えております。

#### 4. その他

**【高橋企画振興部長】**

それではここで本日は西垣副知事よりご紹介いただきまして、AI やデータ活用の専門家であり、内閣官房 IT 総合戦略室の外部委員などを務められたネブラ株式会社の阿部博史さんにお越しいただいております。

ここで阿部さんからデータに基づいた復興タイムラインについて、お話をお伺いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

**【ネブラ株式会社代表取締役 阿部博史】**

よろしく申し上げます。阿部と申します。私は東京大学で客員准教授として、災害情報学をやっておりました。その知見を活かして、復興とはどうあるべきか、これからどのように歩めば良いのかということ、政府関係者の方からも相談を受け、描いてみようかとチャレンジしているのですが、なかなか上手くいかない。

今日は、なかなか面白いまとめ方があるのではということをご紹介したいと思います。

お手元に真っ白なグラフがあるかと思えます。これは横軸が時間で、縦に並んでいるのはたくさんの統計データになります。これまで発災から2か月経ったので、左のところだけが埋まっています。右の方は全部真っ白になっています。ここに、思いを描いていく、施策を展開していくということなんですが、これをそのまま見ても、何がどうなるか全然分からないです。

ここで、1つの疑問が湧きます。復興とは何年間なのか。これは、東日本大震災は13年、阪神淡路大震災は29年経ちました。いつまで続くのか、いつまで見守り続けるのか。これ答えは、ずっと見守り続けるということです。ただそうは言っても、肝となる視野と期間があるということです。

今度はデータが全部埋まったグラフをご覧ください。横軸を5年、10年、20年と様々やってデータを描いてみましたが、この視野角4年というのが、とても便利だということがわかりましたので、これについてちょっとご紹介しようと思えます。

改めて、この一番上のグラフを見てください。なぜ4年にしたのかということをもまずご紹介いたします。棒グラフがたくさん並んでいると思います。仮設住宅の入居者数になります。これは横から1年目、発災から1年目の後半ぐらいに100%ぐらいまでいっています。そこから徐々に人が減っていて、4年後にはどうなっているのか、かなり少ない人数になっているかと思えます。

同じグラフの後ろ側に面グラフがありますが、恒久的な住まいへの移行率というものを書かせていただきました。これを見ると、4年間で99%ぐらいまでになっている。つまり、仮の住まいから恒久的な住まいへ切り替わるのが、4年ぐらいということになります。

これ4年間の視野で見ると、このデータがひっくり返るといえることが、見事にわかります。これをまず軸のデータとして、これを理解するために、10個ぐらいのグラフを下の方に並べてみたというのが、ご覧いただいているシートになります。これから2分ぐらいで、この10個ぐらいのデータを一気にお話します。

1番上、災害に関する話題は、どんな推移を描くのか。冒頭に平時の1万倍ぐらいの話題になります。これがあつという間に消えていって、災害が忘れられるという現象です。翌年でも翌々年でも、全国の方たちはどんどん忘れていきます。これとの戦いが観光だったり、予算などいろいろなものに繋がるということになります。

2番目、災害関連死です。災害関連死は、半年ぐらいまで続くことがあります。まだ今は、現在進行形というところです。ちょっとお伝えするの忘れてましたが、このグラフは、どうやって描いてるのかと。これは、東日本大震災、熊本地震、中越地震など様々な過去のデータを集めて、その傾向からこれを描いております。

単純な予測とかそういうものでなく、熊本地震だけとかそういうことではなく、ほとんどの災害がこのようなパターンで4年間推移しますよというものをしています。なので、リアルではないけども、参考になるという形でご覧いただけたらと思います。

3番目です。ボランティアは2ヶ月目ぐらいが一番ピークで、そこから1年ぐらいで、すっといなくなってしまう。もちろんずっと継続していらっしゃる方もいますが、圧倒的に入出が減ってくるということになります。

4番目は災害関連倒産です。3ヶ月目にピークになることもよくあります。ちょうど1年後ぐらいに、これまた1つ大きな倒産のピークが来ます。ここでおしまいなのかなと思ったら、3年後にも4年後にも、震災関連倒産は続きます。なので、4年視野で見しておくことは、とても重要なことになります。

今度は人口です。人口は、右肩下がりでどんどん減っていきます。出生率は、2年目に、毎回なぜか上がるんですが、総じて減っていくといったことになります。

その次、ガス電気水道と書いていますが、これは復旧です。復旧はいつ完了するんだらうと。ガス電気水道ぐらいは、なんとなく思いつくんですが、公園っていつ復旧するんだらうと、過去の事例だと2年ぐらい経つと公園が復旧します。道路とか橋とか河川は丸3年ぐらいで復旧します。農業施設とか農地も3年ちょっと。病院、学校はいま稼働してますが、それを建て直したりとか補強したりして、完全復旧というのが、4年後と。これも4年ぐらいで1つの丸がつくということになります。

次は、観光の話題、石川県の観光の話題は、いつまた盛り上がるのかと。これ4年単位で見るとちょっと面白いです。1年目は、観光について、もちろん考えるんですけども、2年目、3年目、4年目、これ見ると、1年の間に、2回ずつ大きなピークがあると思います。これは、地域活性化イベントです。2年目、3年目、4年目に盛大にやると。特に、3年目と4

年目は、国際大会を誘致するとかそのレベルのことをドカンと大きく花火を打ち上げることが、毎度のことになります。なので、今から3年目、4年目の巨大スポーツ、ラグビーの国際ワールドカップなどを誘致するというのも、今から考えるということです。

宿泊者数は、海外の方たちは1年半ぐらいで戻ってくるということになります。

下に三つありますけれども、これ景気動向指数というものになります。これはちょっとずつ遅いタイミングが判明していきます。新設住宅着工戸数は2年目にピーク、3年目には有効求人倍率がピーク。4年目には鉱工業生産指数がピークになる。こんな感じで実は、ドミノ倒しのように、4年を大体すぎると、一つの丸がつくということになります。

復興の施策を今日もたくさんご紹介いただきましたけども、この4年間に何をやるのか、かなり濃密に考えていくといいのかなと思います。

最後にあと30秒だけ話します。1番上のグラフの下に、帯状のところがあると思います。発災と書いてあって、1年目、2年目、3年目、4年目と書いてあります。

これは国にしても、県にしても、自治体にしても、プロジェクトがいつ動いていつ完了するかというようなものです。これも全部の災害の大雑把なまとめなので、参考までなんですが、1年目は大騒ぎ。そしていろんなことを考えるという時期です。2年目の頭に、この四角いボックスの地域医療改革プロジェクトを始動、シンボル観光地復活を始動、孤立1人暮らし支援を始動、震災の記録プロジェクトを始動、地域経済のコア開発を始動、次世代防災システムを始動。このあたりのプロジェクトが始動すると、3年目を通り越して4年目の頭に

どれもスタートということで、実際に動いてるということになります。これも4年で大体丸がついてるということになります。なので私がお伝えしたいのは、復興というのは、ずっと続きます。ただ、最初の4年間ものすごく集中して、ものすごくバランスよくやると地域は本当によみがえるかもしれない、ということだと思います。

そして私はこれをたった1枚にまとめました。様々な部署が、それぞれのことをやるということは重要なんですが、4年でデータをまとめて出していく、4年の見込みを全部揃えてねというふうにとやると、ひょっとしたらこの復興会議は、毎回この1枚が生まれるかもしれないということで、こういうものを参考にいただければと思います。

#### 【高橋企画振興部長】

貴重なお話をありがとうございました。

#### 【馳知事】

阿部さん、ありがとうございます。わざわざ昨日の今日で来ていただきありがとうございます。なんでこれやろうと思ったの。

#### 【ネブラ株式会社代表取締役 阿部博史】

これは政府関係者の方から、能登半島地震何とかしてほしいんだと、ちょっとお前はデータが得意だから、少し先の見通しを描いてほしいという要望があったんですけども、実際にやってみるとすごく大変で、私ずっと災害をやっていたにもかかわらず、復興って何年単位でグラフを作ればいいのかすらわかってなかった。

これは私の勉強のためにも、やってみたらすごく4年ってという視野が良かったので、これちょっとぜひともご紹介しようかということで、参りました。

### 【馳知事】

実は、元日、官邸に夜参りましたときに、松村防災担当大臣からこのタイムラインの話を伺いました。

ただ、防災会議は、まず人命救助から始まっていますから、なかなかこの話を皆さんにお伝えすることができませんでした。新年度を迎えるこのタイミングで、ぜひ目標を設定してその目標に向かって、状況を把握しながら目標をクリアするために、今どの位置にいるのかという、我々もわかるだけでなく、県民にも被災者にもお示しをしていく指標として、必要ではないかということで、わざわざ阿部さんに来ていただいたということでもあります。

### 【高橋企画振興部長】

古賀政府現地対策本部長からもご発言をお願いできればと思います。

### 【古賀政府現地対策本部長】

2回目の復興本部に、政府としても参加させていただきありがとうございます。先ほど知事がお話されたように、元旦から発生した震災も3ヶ月が過ぎようとしております。1月、連日知事にもいろいろご相談しながら、県庁皆様方とも力を合わせて日々取り組んできましたが、そのときは3月はどういう状況を迎えているんだろうと、創造的復興はどういうふうになっていくんだろうという思いで日々送ってましたが、3月になって、無事こうやって骨子を示していただきまして、知事のリーダーシップの下、高橋部長、各部長のご尽力されたことに敬意を表したいと思います。

今この復興のタイムラインも大変有意義な説明をいただいたと思いながら伺っておりました。そしてこの復興プランの骨子案ですが、計画期間ということで短期、中期、長期で示していただいております。短期が令和7年度末、2年後となっております、今まさにこれから公費解体を本格化、加速化しようとしておりますが、この公費解体として撤去がこの7年度末を目標にしておりますので、この短期の間には、かなり風景が変わってくる。これから短期の範囲でしっかりさらに復旧、瓦礫の処理を含めてですね、していかなきゃいけないんだなということも、説明を伺いながら感じたところです。それぞれの政策の5本の柱と、さらにその中にある政策の1から8とか9とかございますが、やはりその短期と中期長期それぞれの取り組みがあるんだと思いますので、これからおそらくそういうものを分けながらですね、例えば令和6年は特に何を重点的にやっていくのかっていうことを示されるんだと思いますし、被災者の方も今年どれぐらいを目標にやっていくのかっていうことが関心事なのかなというふうにも感じたところです。

そしてこの説明の中に、例えば液状化対策とかは、この間政府も支援策を示させていただきましたが、やはり熊本の事例を見ていまして、相当な期間を要する取り組みでありますし、それぞれの地域でどういうふうを考えていくのかっていうことでも、それぞれ対応が変わってくる部分もあるのかなと思っておりますのでそういったことも含めて、あとあるいはまちづくりも書いてありますが、これから各市町でも、今本部が立ち上がって、いろんなまちづくりのプランが出てくると思いますので、そことのつながりをぜひ取っていただく中で、石川県全体がその復興に向かって進んでいくことを期待しているところであります。

そして持続可能な地域公共交通というのが3にありましたが、こういうのも本当にまさに関係者の方とですね相当な調整を要する施策だなといったところですので、各省の職員も出

席させていただいておりますが、各省だったり、自治体だったり、事業の関係者もしっかり巻き込んでいただいて、一つ一つ実現に向かって、取り組んでいかれることを期待しておりますし、我々も国としてしっかり後押しさせていただきたいと思っております。4月もまた1日、2日とお邪魔させていただきたいと思っておりますので、そういう意味ではまだまだ政府もおりますので、知事が防災服を脱がれるのはなかなかないかと思っておりますが、さらに復興が加速するようにですね、我々も全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます本日はありがとうございます。お疲れさまです。

【高橋企画振興部長】

ありがとうございました。それでは最後に知事からお願いいたします。

【馳知事】

まず今日までの作業をまとめていただきまして、高橋部長始め皆さんありがとうございます。

阿部さんからおっしゃっていただいたように、私達の作業は長期間になりますが、それぞれが農業、観光、なりわいと土木もそうですね、インフラ、いつまでにどこまでできるのでしょうかという目標を立てましょうよ。立てた目標を可視化して、そのことが例えば議会の委員会で報告できたり、県民にここまで7割まで来ましたよ、あと2ヶ月で100%達成しますよって見える化ということについては、丁寧にやりたいと思っておりますので、今日復興プランの骨子案こちらにありますので、6月議会前には私どもで合意をして、議会の承認もいただきたいと思っております。そうすることで、議会というか、県民の皆さん、市町の皆さんと、これを共有してプロセスを歩んでいきたいと、こういうふうにしたいと思っておりますのでその作業を今後まずお願いしたいと思っております。

加えてですね、数値に出てこないような大事な部分というのは、例えば教育の分野で、子供たちが成長していくプロセスにおいてですね、学校のテストの点数じゃないんだから、何としてもやっぱり故郷の事を大事に思いたい。そのために自分も参加したいと、そのために必要なですね、お祭りに参加するとか、地域の行事やボランティア活動に参加するとか、いつまでも被災者を弱者のままにしておくのではなくて、被災者が主体的に地域をリードしていくと。私はその推進力は子供たちの教育力にあると思っております。であるからこそ、例えば、毎年、能登では、日本遺産であるお祭りが各地で行われます。行事もでございます。こうしたお祭りにどこまでできるのかできないのかといった指標もですね、担当は、これから文化観光スポーツ部になるんですけど。やっぱりお住まいされている皆さんにとって、生活とか生きがいっていうのは一体なものですから、ただご飯食べて寝てればそれで終わるっていうものじゃありませんから、ここに生活していてよかったなど、そういう価値観を生み出していくという指標も必要になってくると思っております。

各部局は行政という分野の数値と、1人1人の市民生活を通じた、いわゆる地域に根ざした誇りとかプライドとか生きがいとか、そういった中でフォローしていく。能登で言えば高齢者が多いわけですから、介護の安心とか医療の安心とか福祉の安心とか、こういったなかなか数字に表しづらい満足度ですよ。まさしくこの満足度、最近ではウェルビーイングという話ですけど、そういう意味では満足度、幸福度、能登で生まれ育ってよかったなど、これを高めることができますね、今回の災害で、選択肢としてやむを得ず故郷から離れざるを得ない、離れて生活することを選択したとしても、やっぱり心は常に故郷に帰りたいんだと、あるい

は帰りたいときに帰れるんだと。あるいは、二居住拠点という選択肢もあるんだと。そして加えて、環境などの自然環境の魅力というのは、世界農業遺産であったり、日本遺産であったりですね、こういった新たなブランド力価値観に繋がっていくと。これはこれで一つの観光資源として商品にもなっていくでしょう。それをリードするようなリーディングプロジェクトもやっていきたいと思っています。

こういった相乗効果を生み出すようにですね、私達連携してやっていきたいと思っています。このことは、今日同席いただいた政府の皆さんにも、ぜひこういう姿勢で、こういうタイムラインで、こういう目標で取り組もうとしているんだということをご理解いただければありがたいと思っています。

加えて国防の観点から申し上げればですね、半島におけるこの震災のときに万が一、国防の事案が起こったらどうするんだろうと考えれば、今般の自衛隊の陸海空の、私ども県民に対する支援は極めて大きな意味を持っていると思っています。従って、輪島分屯地の役割や、空港が拠点になったことの意味合いというのは、私達は各部局も県民の皆さんにもご理解いただけたと思います。

強靱化を目指す以上は、更なるですね、こういった半島における災害と国防とを一体的に考えていく必要もごさいます。そういった意味で、今般の防衛省のご支援に対して感謝するとともに、感謝だけではなくて、今後どういう機能を、輪島分屯地や能登空港において持つべきなのかといったことも、意識していただければありがたいと思っています。

それから今後ですね、創造的復興に向けて、来月からのと未来トークをスタートします。徹底的に県民の声を聞くということで、ここで引き続き、各地域の被災者の皆さんの声をお聞きして、加えて、アドバイザーボードの方々のご意見もお聞きしながら、これに詰めていきます。

各施策の具体化を進めて、6月補正も見据えつつ、6月議会前までに創造的復興プランの、まず最終案を取りまとめる作業を進めたいと思います。当然、取りまとめて、議会にもお示しをし、議会にも承認をいただいた上で、実行しなければ意味ありませんから。その実行に向けてのプランというものをお願いしたいと思っています。私からは以上です。

## 5. 閉会

### 【高橋企画振興部長】

以上をもちまして本日の会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。